

中国烏鎮における水辺の接続空間に関する研究

熊本大学 学生会員○カ・ライ 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

中国の江南地方にある烏鎮は河川と運河に囲まれた牧歌的な小都市である。近年、観光地開発され、東柵地区、西柵地区の順番で景観保存地区に指定した。さらに、現在開発が進行している南柵地区もある。中国江南地方の水辺空間には、中国の伝統的な街並み景観の工夫が施されている。本研究の目的は中国烏鎮の西柵・東柵地区における水辺の接続空間の構造や配置(図-1)、設えを調査することで、中国の伝統的な水辺空間の役割を明らかにすることである。今後の、中国の伝統的な水辺空間の景観保全、利活用の一助としたい。

2. 烏鎮の都市形成史

まず研究対象地である中国烏鎮の歴史や生活環境など都市形成史について詳述し、水辺空間整備の経緯を読み解いた。烏鎮は桐郷県の中心部から、北部に13 km 距離にある。西が湖州市、北が江蘇省呉江県、東南が民合、新生、炉頭、民興など郷鎮と隣接し、東北が嘉興市近郊にある。悠久の歴史があり、水に交通の要衝として発展した。

烏鎮の縦横は約7.4 km、面積は32.8 km²である。河川の沖積と湖沼の堆積によって平原になったので、地勢は平坦であり、河川・運河が縦横に交錯し、気候が温和湿潤で、日当たりもよく、物産豊富である。表-1に烏鎮の烏・青鎮が合併したことに始まり、現代までの歴史の概要を年表にまとめた(表-1)。

3. 近年の江南地域における水郷地域開発

近年の中国江南地域における水郷地域開発の現況把握を行った。烏鎮は水上交通の要衝で、水網都市として発展した。東柵地区は1999年から開発され、2001年に壁に囲まれた観光地として開園した。園内には一部地域住民が暮らしている。東柵地区は観光地として成功し、地域での観光収入が増えたので、西柵地区も2005年から観光開発が始まり、2007年に同様に開園した。しかし、ほとんどの地区が観光地として整備され、かつての町並みが感じ取れる。場所は少ない。観光地の経済利益に伴って商業化・観光地化し、市民の生活はほとんど見られない。

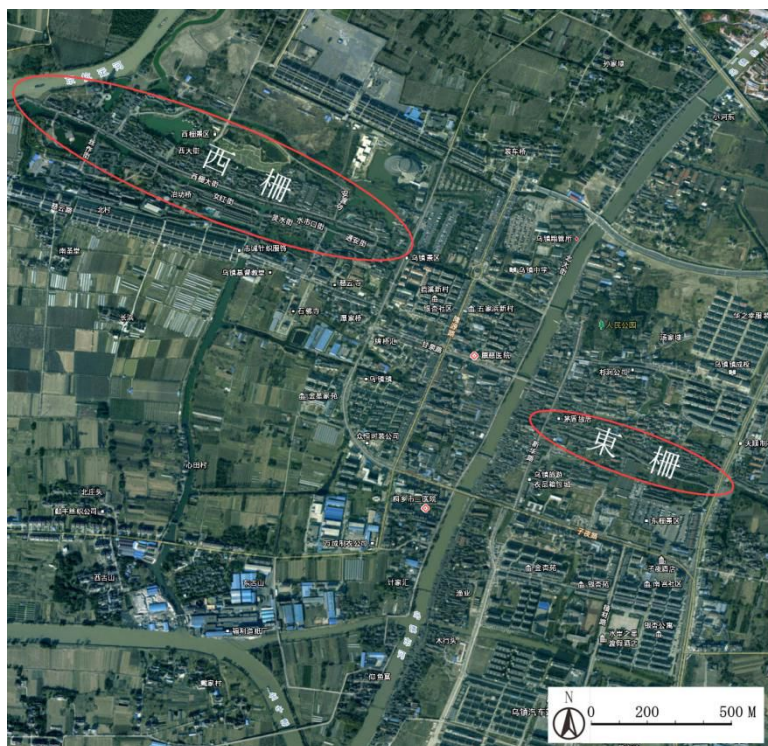


図-1 烏鎮全体図

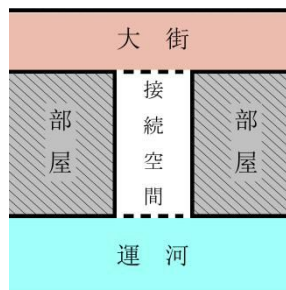


図-2 接続空間図



写真-1 広場 (E8)



写真-2 トオリ (E1)



写真-3 トオヤ (E7)

4. 東柵・西柵地区の接続空間

本研究では、「接続空間」とは水辺空間において、水上交通の要衝として栄えてきた最も烏鎮らしい空間、つまり運河と大街を繋いでいる空間とした。中国語では「巷(シアン)」と発音される空間が、本研究で

比較	東柵	西柵
開発時間	1999年	2005年
開放時間	2001年	2007年
水辺の長さ	0.582 km	1.284 km
構成	トオリ	5
	トオヤ	4
	広場	1
	直接	9
接続方式	L字	1
	他	0
	ベンチ	1
	喫煙所	0
施設比較	水飲場	0
	木	2
	店舗	0
	ゴミ箱	2
		3

表-2 接続空間の比較

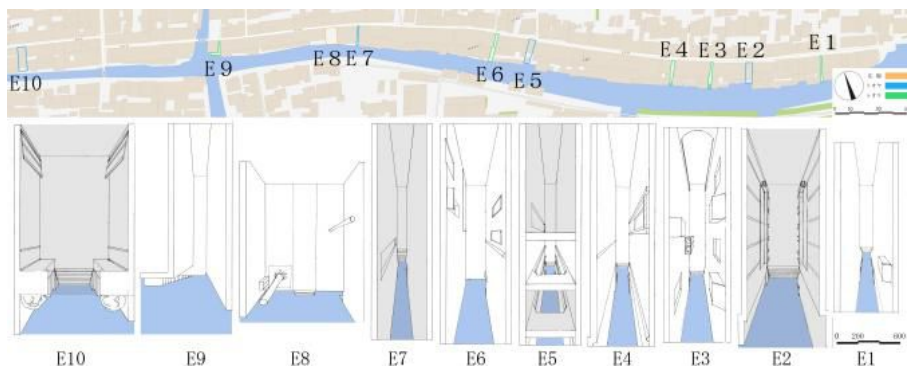


図-3 東柵地区の接続空間



図-4 西柵地区の広場

は以下の3つのタイプに分類された。構成・構造等を図-2に詳述した。

- ①トオリ：家屋と家屋の間、もともと水辺へ至る路地として整備されていた空間（写真-1）
- ②トオヤ：家屋の壁を取り払ったような構造で、運河と路地が接続されている空間（写真-2）
- ③広場：橋詰めや比較的広い場所にて、広場のように整備された空間。（写真-3）

次に、東柵；10ヶ所、西柵；24ヶ所の接続空間について、表-2のように整理した。（図-3、図-4参照）その後、東・西柵の全体像と東・西柵の違い、それぞれの特徴等を明らかにした。

5. 東柵・西柵地区における接続空間の比較分析

表-2より、西柵地区は東柵地区の2倍の延長があるので、単純に倍をして考えると、東柵地区の開発から、西柵地区の開発に至って、トオリの数が減り、トオヤの数が増え、広場の数が激増した。

(1) 東柵地区の接続空間に関する考察

- ①トオリ：ほぼ同じ間口の広さ、平均は135.8 cm。
- ②トオヤ：間口はバラバラ。③広場：例外として扱う

(2) 西柵地区の接続空間に関する考察

- ①トオリ：ほぼ同じ間口の広さ、平均は241 cm。

- ②トオヤ：間口の平均は279 cm。
 - ③広場：橋詰広場3ヶ所、後の4ヶ所。図-4に示す。
- (3) 両地区における接続空間の比較分析

両地区を比較すると、①トオリは、数は増えていないものの、平均の間口幅が、135.8 cmから241 cmまで大きくなった。②トオヤについても、数が増えた他、設えも豊かになっている。さらに、③広場に関しては、7ヶ所と大幅に増え、トオヤ、広場ともに、観光客の利用が多く、東柵に比べて西柵地区は観光客向けの整備を行ってきたと言える。

6. まとめ

本文はまずに烏鎮の都市形成史を整理し、近年の江南地域における水郷地域の開発を調べ、烏鎮らしが一番に持っている接続空間について考察した。

【参考文献】1) 中国建築文化センター：阮儀三文集，2001。

2) 陳内秀信：中国の水郷都市，1993。